

第1章 はじめに

I ビジョン策定の趣旨

観光は、宿泊業や旅行業、運輸業はもとより、飲食業、農林水産業、商工業など、関連する産業の裾野が広く、地域経済の活性化に大きく寄与するほか、幅広い分野にわたって波及効果をもたらし、持続可能な開発目標（SDGs¹）の達成へ貢献する産業として、期待が高まっています。

しかしながら、本県の観光産業は、地域に根ざした小規模事業者が中心であり、また、季節変動の影響を大きく受ける傾向が強いことから、他の産業と比較すると生産性が低くなっています。今後の地域経済の発展を考える上では、観光産業の生産性を向上させ、持続可能な産業として確立させていくことが重要になります。

折しも、新型コロナウイルス感染症の拡大は、三密（密集・密接・密閉）を回避するため、人々が外出を自粛し、消費活動が減少したことにより、地域経済に深刻な打撃を与え、社会活動全般に大きな変化をもたらしています。

一方、デジタル技術の進展を踏まえたDX²（デジタル・トランスフォーメーション）が注目されており、企業活動や人々の生活様式など、社会全体が大きな変革期を迎えているところです。

こうした大転換期にある今こそ、社会情勢を踏まえながら、時代を先取りした取組を展開することが必要であり、アフターコロナを見据えつつ、持続可能な観光産業を創り上げることを目指し、ここに新たな観光振興ビジョンを策定します。

II 計画期間

本ビジョンは、令和4年度からスタートする県の総合計画である「新秋田元気創造プラン」の部門計画としての役割も有しており、同計画との整合性を図る観点から、概ね10年後を見据えた中長期的視点に立った内容としています。

計画期間を令和4年度から令和7年度までとし、各種施策を4年間で重点的に進めることにより、本県観光の目指す姿の実現に向けた道筋を付けていきます。

5年目以降については、県の総合計画との整合性を図りながら、社会経済情勢の変化を踏まえた新たな観光振興ビジョンを策定していきます。

¹SDGs：国連サミットで採択された、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であり、17のゴールと169のターゲットから構成されている。

²DX：データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズをもちに、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。